

日付：2022年9月10日

カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト

プロジェクト名

1. 図書館事業
2. 保健室事業
3. 教員養成大学学習支援および現任教員向けアップグレード研修

背景と目的

一般社団法人教育支援センターキズナ（以下、キズナ）は：

- 1 カンボジアにおいて、僻地出身の教員研修生に対し奨学金支援を実施→全国に2,400人超の奨学金同窓生（アルムナイ）を輩出、アクセスの悪い僻地で教員として活躍中。
- 2 英語事業（EiF）を実施→教育青年スポーツ省(MoEYS)にその成果を認められ、中学・高校の教科書および指導書を開発。現在、カンボジア国定英語教材として全国で使われている。
- 3 地方で教鞭を執るアルムナイ教員たちと、定期ワークショップを通じて教育現場における問題を共有し、芸術教育、小学英語、学校運営、環境整備など、教育問題解決に向けたアルムナイ活動を開始した。
- 4 近年では、それらのアルムナイ教員活動から派生し、学校地域住民と連携した図書館・保健室設置事業に注力。
- 5 今年度から教員レベルの底上げを図るため、教員養成大学におけるアクティブリサーチや、現任教員向けのアップグレード研修実施に向けた調査に取り組む。

1. **図書館事業**

世界的なテクノロジーの飛躍的な向上により、日常生活を取り巻く環境が複雑化し、将来の予測が困難な状況にある中、これまで以上に「自分で考える力」の重要性が求められる。そんな中、カンボジアにおける読解力は国際的にも著しく低く、OECDが実施している国際学力調査PISA(2018年)においては、基礎的な読解力に達しているというレベルにある生徒の割合が、全体の僅か10%未満に集中しているという結果だ。その原因としては以下の原因があげられる。

- 現行の国語教科に読解力、リテラシー能力育成のコンテンツの欠如
- 読書習慣を獲得できる環境の欠如
- 指導する教師自身が読書の効用を理解していない
- 図書館が機能している学校が極めて少ない

これまでも幾つかの国際機関が、図書館設置や読書普及の支援事業を行っているが、単に本を配布するだけの支援が多く、機能的に図書館が運営されている学校は少ない。生徒に読書を普及させるためには、先ず教師自らが、読書を体験した上で、読書の効用を正しく学び、生徒達に読書習慣を身に付けさせていく必要がある。

一方、カンボジアの公立学校には、原則人事異動がなく、学校の質の良し悪しは、学校長の運営能力に依存する傾向がある。校長を対象とした調査では、実務上必要な、短期間の目標設定や計画策定も困難なほどリテラシースキルが低い状況である。

そこで2019年、アルムナイ校長の中から、学校改善に意識の高い14の学校の校長（プレアビヒア州2名、スタントレン州4名、コッコ州7名、モンドル

プロジェクトの背景と目的

キリ州 1 名) を公募で選出し、ラーニング読書を通じた読解リテラシー研修を開始。2020 年には 3 度の対面研修を実施。コロナ中は、毎月一回の頻度で、オンライン読書研修を継続した。

アクティブラーニングの手法を導入した読書法とマインドセットについての読書習慣を啓発するため、同 14 校に図書館用にクメール語書籍 (生徒用 300 冊と大人用 50 冊) の配布と、各学校の図書館担当教員と校長を対象に 5 日間の図書館マネジメント研修を実施。11 の中等学校 (プレアビヒア州 2、スタントレン州 4、コッコン州 4、モンドルキリ州 1) と 3 の小学校 (コッコン州) で図書館が開設、14 の各学校に図書室司書が配置された。その後、3 回のフォローアップ研修、および図書館システム導入のための研修を実施。全国のモデルとなる学校図書館運営ネットワークの構築支援を開始した。

2. 保健室事業

国の発展には、青少年の健全な精神と健康な身体作りができる環境が必須である。カンボジア教育青年スポーツ省は、2014 年の教育改革の一環として、保健教科を独立した 1 カリキュラムとして実施することを定め、教科書の制作を進めているが、現時点において各学校教員への研修および教科書の配布計画も定かではない。また、全学校に向けて保健室の設置を推奨しているが、国で規定された保健室運営マニュアルは無く、殆どの学校で保健室業務が正しく機能していない。

カンボジア西部、タイとの国境に位置するコッコン州は、全国で最も道路アクセスの悪い地域の一つであり、全日本財団アルムナイ教員 2400 名の 3 割が勤務している。また、6 州の中で唯一、中等学校 (中学、高校) だけでなく小学校にもアルムナイ教員が在籍しており、全公立学校 (43 中等学校、121 小学校) にアルムナイ教員が勤務している。

そのネットワークを活かし、中学校の保健室が、同校区の小学校への保健教育活動や、地域コミュニティーを巻き込んだ学校保健モデルの構築が可能であると考え、コッコン州教育局との協議を経て、まずは国道沿い、沿岸部、丘陵地帯、といった地域性の異なった 9 つの中等学校をモデル校に選抜し以下の活動を開始した。

1) 【紙芝居を使った保健授業】

現在、学芸大学が教員大学への保健専門教官研修を開始しているが、実際に学校現場に保健教育を受けた教員が配備されるには更なる時間がかかる。

そのためキズナでは、学校現場の保健授業を補完するために、保健教育を受けたことのない現役教員でも保健授業を実施することができる保健教材 (紙芝居、カルタ、双六) の開発に着手し、中学校 3 年分のカリキュラムを完成、9 つの中学校への保健担当教員と校長への教材研修、および G7 (中学校 1 年生) の生徒を対象にパイロット授業を実施した。

2) 【保健室の設置と研修】

保健室の維持運営には、地域住民や医療セクターの協力が不可欠である。同 9 中学校の教員に加え、地域協力者、および最寄りの医療センター職員、各 1 名ずつを招聘し、保健室の設置と保健室運営の研修を 3 回実施。9 つの中学校に保健室が設置され、保健担当教員が配備された。

今後は、上記活動をマニュアル化し、コッコン州全 31 校の中学校への事業拡大を目標とする。

また、東京学芸大学、教育省学校保健局と共同で、全教員と生徒が保健室を運営するための保健室マニュアルを制作し、コッコン州 166 (小学校 121, 中等学校 31) の全学校に配布する。

3. 教員養成大学(TEC)学習支援および現役教員向けアップグレード研修

3-1. 【TEC 研修生に対する学習支援】

1) 読解リテラシー教科カリキュラム開発

カンボジアにおけるリテラシー能力の低さは上記した通りであり、教師を通じて読書を普及させていく必要がある。読書を通じてリテラシー能力を向上するための、アルムナイ校長とのオンライン読書ワークショップを基に、TEC 教官と協働で、アクティブラーニングの手法を取り入れた「読解リテラシー教科」カリキュラムを開発した。現在 TEC 1 年生の正規科目(1 単位)として授業に導入されている。

2) 図書館マネジメント研修と本の配布

プノンベン TEC (PTEC) とバットアンバン TEC (BTEC) の図書館担当職員各 3 名およびマネジメントチーム 2 名に、5 日間の図書館マネジメント研修を実施。今後定期的なフォローアップ研修を計画している。また、読書習慣を啓発するために、各図書館にクメール語書籍 300 冊を配布した。また、学生達が赴任した学校で図書館を運営するためのカリキュラム作りを進めている。

3) アクションリサーチ論文課題の支援

2 年制の研修所から 4 年制大学へと変革した TEC。4 年制で初の学生達全員が卒業論文を提出し卒業を迎えた。卒業論文の執筆義務は、カンボジア国内最高峰である王立プノンベン大学や、国立教育研究所 (NIE) でもなし得ていない快挙であり、自発的で挑戦的な試みである。

TEC では、さらに学生の能力向上を図るべく、教育現場における実態改善を試みるアクションリサーチを取り入れた論文手法の課題導入に挑戦する。

これまで TEC に対して、研修生への奨学金 (生活) 支給を継続してきたが (2008-2019)、新たな教育の質向上にむけた支援として、両校の学生 500 名が、アクションリサーチを実施するために必要な学生への研究費用の提供、および論文指導をする担当教官 50 名 (P-TEC25 名、B-TEC25 名) の育成支援を実施する。

4) 伝統文化学習支援活動

研修生が将来教師として自国の文化と誇りを次世代に継承することができるように、以下の文化学習活動を支援している。

a. 【教員養成大学 (TEC) アンコールワット研修】

プノンベンとバットアンバン TEC 最終学年の研修生全員 500 名に対し、世界遺産であるアンコールワットにおける課外研修を実施している。

b. 【教員養成大学 (TEC) 伝統芸能クラブ活動支援】

カンボジアにはアプサラダンスやモンキーダンスなど、ユネスコの世界遺産にも登録されている伝統芸能が存在し、プノンベンにも芸術専門教員アルムナイが、約 50 名所属しているが、公立学校では芸術の授業が実施されていない現状であり、貴重な国の文化遺産についての伝承の機会も閉ざされている。そんなアルムナイアート教員達の発案で、2019 年から開始した P-TEC 研修生を対象としたクラブ課外活動は、年 3 回の定例発表会 (始業式、アルムナイワークショップ、終業式) に向け、研修生 49 名による自主的なクラブ活動が展開されており、キズナでは 9 名のアートアルムナイ教員による週 1 回のボランティア指導への交通費補助と最低限の必要備品の支援を行った。

	<p>クラブ活動開始当時に開催したアルムナイ全体ワークショップでは、本クラブ活動に共感したアルムナイ達から活動のためのドネーションも集められた。2025年に非アート教員による芸術教科プログラム開始を視野に、アルムナイのボランティア指導への支援を行っている。</p> <p>3-2.【現役教員向けアップグレード研修支援】</p> <p>教員研修過程のカリキュラムが充実する中で、政府による現役中等学校教員へ no アップグレード研修は実施されておらず、特に教授法については変化も大きく、教育現場での世代間ギャップが拡大されていくことが懸念される。プノンベン TEC と共同で、コッコン州のアルムナイ教員を対象とした、調査と研修トライアルを開始し、将来 TEC が全国の教員を対象に展開可能なアップグレード研修プログラムを構築する。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>1. <u>図書館事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - 2023年度は、新たにコッコン州の中学校 13 校に図書館が設置され、それぞれの学校に研修を受けた図書館司書が配置され 2,100 名の中学生が図書館を利用できるようになる。2021 年からの累計では、26 校の中等学校と 4 校の小学校に図書館が設置され、生徒 4,300 名が図書室を利用できるようになる。 - 最終的にカンボジアの小学から高校までの公立学校の生徒達が、図書館にアクセスできる様になり、読解リテラシー能力 (自分で考える力) 向上に寄与する。 <p>2. <u>保健室事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - 【学校保健室】コッコン州 10 校*のモデル中学校の 20 名 (担当教師、校長、保健センター職員の各 3 名) に、保健センターと連携の取れる保健教員が配置された保健室が設置され、1,359 名の中等学校生徒が保健室を利用することができるようになった。最終的には州全部の中等学校 31 校の 12,299 名が保健室を利用することができるようになる。(*1 名が 2023 年度より同州他校に人事異動するため 1 校拡大) - 同モデル 10 校に対する紙芝居保健授業の研修とパイロット授業を通じ、Grade7-9(中 1 ~ 3 年) で非保健専門教員による保健授業モデルが構築される。 - 紙芝居や遊戯教材を活用した生徒達による同地域の小学校ボランティア活動や、地域住民との PTA 運動会、成人定期身体測定などのコミュニティー向け地域健康イベントを通じて、地域全体の保健意識が高まる。 - 【保健室マニュアル】東京学芸大学、TEC、MoEYS と協働で、全ての教員、保健委員の生徒が保健室を運営できる「保健室マニュアル (ブックレット、ビデオ)」が完成し、州全部の学校 164 校 (小学校 121、中等学校 43) に配布されることで、生徒 29,498 名 (小学生 17,199、中等学校 12,299) が保健室を利用できるようになる。 - 【教材開発】保健辞典、アニメーション、および日本の伝統芸能である紙芝居や、カルタ、双六といった伝統遊具を活用した教材で、生徒の学習意欲が高まるだけでなく、非保健専門の中学教師も、生徒に保健授業を行いながら、自らも保健の学習ができる (Teaching & Learning)。地域住民に対する保健啓蒙活動にも活用される。 <p>3. <u>教員養成大学(TEC)学習支援および現役教員向けアップグレード研修</u></p> <p>【TEC 研修生に対する学習支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 読解リテラシー教科 (1 年生) により、学生達が読書の楽しみを知ることで読書に親しみ読書習慣を獲得する。 - 図書館マネジメント支援により、図書室の運営と活用および、学生の調査手法を習得し、学生がアクティブリサーチ (3-4 年生) に取り組める学習環境が整備される。

<ul style="list-style-type: none"> - TEC 教官への論文指導補助および学生への研究奨学金支援により、質の高いアクティブリサーチ論文が提出される。 - 奨学金の提供により、毎年 500 名の新人教員が、卒業後も日本財団のパートナーとなるアルムナイ教員として輩出される。 - アンコールワット研修および、伝統芸能クラブ活動支援を通じて、学生達が自国の文化と誇りを学び、その知見を次世代に伝えていく事ができるようになる。 <p style="text-align: center;">【現役教員向けアップグレード研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> - PTEC との協働で、地方の現役教員のニーズに適合したアップグレード研修モデルが構築され、古いカリキュラムを受講した現役教員と新しいカリキュラムを受講している新人教員との指導技術のギャップが埋められる。 - 定期アルムナイ会議の開催で、2,400 人のアルムナイ教員が、キズナと協働の教育活動についての意見交換を行い、また新たな知見を得ることで、地方の教育問題解決に向けた自主的な取り組みが促進される。
--

<p>プロジェクト概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>図書館事業</u> <ol style="list-style-type: none"> 1 新たにコックン州の 13 の中学校に図書館を設置する。(累計 26 の公立学校) 2 本の分類や貸し出し、図書館の活用を学ぶ 5 日間の図書館マネジメント研修 3 図書館開始後 3 ヶ月目に情報共有とアップグレード研修 4 13 校へのモニタリング 2 回を実施。 5 モニタリングの結果を基にした情報共有、モデル図書館の見学、を含むアップグレード研修 6 13 校に図書館システムの導入と研修を実施 7 前年度に図書館を導入した 13 の学校 (26 人) に対するアップグレード研修。 8 隣国タイへの研修旅行実施 9 図書館運営のためのマニュアル教材制作 2. <u>保健室事業</u> <ol style="list-style-type: none"> 1 コックン州モデル中学校 10 校の 20 名 (各学校長、保健担当教員) に G8 および G9(中学 2 年、3 年) 用、紙芝居授業の対面研修 2 研修後の授業実施のモニタリング (1 回目) 実施。 3 オンラインによる研修計 5 回を実施する。 4 研修後の実施状況のモニタリング (2 回目) を実施。 5 モニタリングの結果を基にした情報共有を含むアップグレード研修を 2 回実施。 6 保健室マニュアルの制作。 7 地域住民との保健課外活動 (PTA 運動会、学校菜園、紙芝居ボランティア、健康測定) についての健康イベント開催。 8 屋根付き運動場のある学校で、健康イベントを実施する。 9 保健授業を補完する保健辞典を制作する。 10 生徒、教員、地域住民を対象に保健に関するベースラインおよびエンドライン調査を実施する。 11 MoEYS による実施校の事業評価 (事前、終了時) を行う。 12 日本研修旅行の実施 3. <u>教員養成大学(TEC)学習支援および現役教員向けアップグレード研修</u> <p style="text-align: center;">【TEC 研修生に対する学習支援】</p>
-----------------	---

	<ol style="list-style-type: none"> 1 読解リテラシー教科を担当する教官 12 名 (PTEC と BTEC から各 6 名) で、定期ミーティング 2 回を行う。 2 前年度導入の図書館システムおよび図書館活用についてのフォローアップ研修を 14 名 (各 7 名 / 図書館司書 3、マネジメントチーム 4) に 2 回実施する。 3 TEC1 年生に図書館の利用方法、4 年生に図書館マネジメントのための課外授業プログラムを開発する。 4 両 PTEC4 年生の学生 500 名に研究奨学金 100 \$ を支給する。 5 116 名の論文担当教官(P-TEC 59、 B-TEC 57)に 200\$の論文指導経費を支給する。 6 アンコールワット研修は、コロナの影響で対象となる 4 学年学生無し。 7 伝統芸能クラブに週 1 回ボランティア指導に通うアートアルムナイ 12 名に交通費の補助を行う。 <p>【現任教員向けアップグレード研修】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アルムナイネットワークの役員会合を開催する。 2 プノンペン都とバットアンバン州でアルムナイネットワークの会合 2 回を開催する。 3 コッココン州のアルムナイ教員のいる学校を対象に、PTEC の教員とともにアップグレード研修についての 2 回の訪問調査に基づく研修カリキュラム案を作成する。
--	---

活動の周知	<ul style="list-style-type: none"> - 教員養成学校での定期イベントを通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディア等に対して本事業の周知をはかる。 - アルムナイ定期ワークショップ開催により本事業の周知をはかる。 - 各地でのワークショップおよび開催イベントを通じ、本事業の周知をはかる。 - HP や冊子を通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディア等に対して本事業の周知をはかる。 	
実施地	カンボジア 26 都市	
プロジェクト予算 (単年)	687,897 米ドル	プロジェクト実施機関 開始： 2023 年 1 月 1 日
日本財団への申請額	611,637 米ドル	終了： 2023 年 12 月 31 日

プロジェクトの画期的・独創的な側面	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>図書館事業</u> <ul style="list-style-type: none"> - 学校に訓練を受けた図書館司書が配置され、機能的な図書館運営が行われる - 国際的に低いカンボジア学生の読解リテラシー能力向上のための石杖となる 2. <u>保健室事業</u> <ul style="list-style-type: none"> - 日本財団奨学生アルムナイ教員達が、地域住民や保健セクターと協力し、地域のニーズに即した学校保健室が運営される。 - 日本の伝統芸能や遊戯を活用した保健教材の開発。 3. <u>教員養成大学(TEC)学習支援および現任教員向けアップグレード研修</u> <ul style="list-style-type: none"> - カンボジアの大学で唯一アクションリサーチを導入した論文指導が行われる - TEC の学生たちが自国の伝統について学び高い誇りを持った教師となる - 日本財団アルムナイ教師によって教育の質を高めるための事業が拡散される
-------------------	---

プロジェクトから期待される効果・長期的影響	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>図書館事業</u> <ul style="list-style-type: none"> - 国民の読書習慣が高まる結果、国民全体のリテラシー能力が向上する。 2. <u>保健室事業</u> <ul style="list-style-type: none"> - 国民の保健への関心が高まる結果、国力が増大する。
-----------------------	--

	<p>3. 教員養成大学(TEC)学習支援および現役教員向けアップグレード研修</p> <ul style="list-style-type: none"> - 都市と地方、世代間の教育格差が是正される。
評価方法・検証手段	<p>評価方法、客観的に証明可能な指標、プロジェクトの成功を測るためのデータなど、プロジェクトの成果や影響をどのように評価するかを述べよ。</p> <p>1. 図書館事業</p> <ul style="list-style-type: none"> - 図書館マネジメントの専門家によって全事業実施校を対象とした教員と生徒を対象としたモニタリング調査を行い、事業効果を検証する。 <p>2. 保健室事業</p> <ul style="list-style-type: none"> - 東京学芸大学と全事業実施校を対象に教員、生徒および地域住民を対象としたモニタリング調査を行い、事業効果を検証する。 <p>3. 教員養成大学(TEC)学習支援および現役教員向けアップグレード研修</p> <ul style="list-style-type: none"> - 図書館マネジメントの専門家によって両 TEC を対象とした教員と生徒を対象としたモニタリング調査を行い、事業効果を検証する。 - アルムナイのいる学校を訪問し、インタビュー等を通して、事業効果を検証する。 - アルムナイ、地域住民を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。

複数年プロジェクトに関する情報のみ：プロジェクト実施期間6年の4年目。

プロジェクト実施期間	2020年1月1日～2025年12月31日	
プロジェクト予算総額	日本円/米ドル/ユーロ 4,863,600 米ドル	日本財団への助成申請額 4,863,600 米ドル

実施スケジュール

プロジェクト活動	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
プロジェクト期間	2021年 1月1日 ~2022年 4月30日	2022年 5月1日 ~2022年 12月31日	2023年 1月1日 ~2023年 12月31日	2024年 1月1日 ~2024年 12月31日	2025年 1月1日 ~2025年 12月31日	2026年 1月1日 ~2026年 12月31日
プロジェクト年間予算	719,200 米ドル	748,000 米ドル	809,800 米ドル	809,800 米ドル	809,800 米ドル	809,800 米ドル
プロジェクト内容	教員養成 教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・学校保健教材開発と授業実施 (コッコン州中学9校)	教員養成 教員養成校への研修提供、 図書館 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健	教員養成 教員養成校への奨学金提供、 図書館 アラムナイ アップグレード研修、 学校保健 紙芝居授業・保健室	教員養成 教員養成校への奨学金提供 アラムナイ アップグレード研修 学校保健 紙芝居授業・保健室 (コッコン州中学43校)	教員養成 教員養成校への奨学金提供 アラムナイ アップグレード研修 学校保健 紙芝居授業・保健室	教員養成 教員養成校への奨学金提供 アラムナイ アップグレード研修 学校保健 紙芝居授業・保健室

		保健教材開発と授業・保健室 (コッコン州中学9校) 図書館設置 (ST,PV,KK 13校)	(コッコン州中学10校) 図書館設置 (コッコン州13校)	図書館設置 (コッコン州26校)	(コッコン州中学43校) 図書館設置 (コッコン州40校)	(コッコン州中学43校) 図書館設置 (コッコン州60校)
	英語：終了 学校保健：コアモデル校づくり	学校保健：コアモデル校づくり、図書館設置開始	奨学金再開。 学校保健：コアモデル校づくり、マニュアル化	学校保健、図書館、拡散期	学校保健：拡散期	学校保健：州での実証トライアル。政府への移譲
プロジェクト予算	米ドル 4,863,600 米ドル	日本財団への助成申請額	米ドル 4,863,600 米ドル			
実施地	カンボジア 26 都市					